

心の歴史を築く



「小さな親切」運動は、今年54年目。

この年月を共に歩んだ道府県本部、市町村支部も30年、35年、40年と大きな節目を迎えました。

それぞれの地域色溢れる活動に焦点を絞り、ご紹介します。



森田浩治 愛媛県本部代表(中央) / 森本弘道 中央本部理事(右)
亀井保徳 愛媛県本部事務局長(左)



実行章受章者と記念撮影する鈴木支部代表(左)と邑上守正市長(右)

東京都 武蔵野市支部 定時総会

まちの宝は「親切さん」

とき…平成29年6月15日(木) 14時～16時
ところ…多摩信用金庫吉祥寺支店 4階ホール



東京都で唯一の組織である
武蔵野市支部は、創立30周年
を迎えた。

定時総会では30周年を記念して車椅子15台、書籍「涙がとまらないすてきな物語」100冊が寄贈された他、「小さな親切」実行章が個人11名、団体3団体に贈られた。同支部の実行章贈呈の良さは、推薦者も参加して受章者の親切をたたえること。加えて、鈴木弘昭代表と邑上守正市長と共に一人ずつ記念撮影も行われ、笑顔が会場を包む。

総会終了後の懇親会では、吟詠吟舞錦鳳流三代目による祝舞が披露された。

会員さんが話してくださった。「昔、祖父にもらった手紙に茅誠司氏のことを書かれて

いた。大学の友人だったと思う。主人の転勤で各地を回り、そこでボランテアを行った。武蔵野にきてボランテアをしていたところ、茅氏

がはじめられた「小さな親切」運動から実行章をいただいた。いただくばかりでなく、今度は会員になったの」。

地域の親切さんを発見し、感謝を伝える実行章。武蔵野のまちに親切の輪が広がっていることを実感した。



鈴木弘昭支部代表より実行章を贈呈

愛媛県本部 結成35周年記念大会

一万回の「ありがとう」



愛媛県本部の35周年記念大会は、来賓に原昌史副知事、井上正教育長、中央本部から

は、広島県本部代表も務める森本弘道理事を迎え、盛大に開催された。

式典では、実行章贈呈のほか、35周年記念

とき…平成29年6月8日(木) 10時～11時55分
ところ…伊予銀行本店 4階ホール

事業として行われた作文コンクールの入賞者の表彰と、作文朗読が行われた。緊張気味の入賞者もいたが、大会開始前や休憩時間などのわずかな時間に、森田浩治県代表や役員が入賞者の席へ駆け寄り、声をかけている温かな姿が印象的だった。



たゆまぬ努力で

東京都 武蔵野市支部

愛媛県本部

広島県本部



香川県本部 岡内利文副代表(左) / 広島県本部 森本弘道代表(右)



原副知事より作文コンクールの表彰



教育と「小さな親切」運動について講演

広島県本部 第40回総会

県下七支部と共に



広島県本部は40周年を迎え、総会と記念講演を開催した。森本弘道県代表は、あ

いさつの中で、愛媛県本部の35周年記念式典に出席し、森田県代表のご紹介で前述の書籍「ありがとうの奇跡」を読んだことを話され、その中から感銘を受けた言葉を紹介。そして、原爆の被害にあいながらも生還した、父親の座右の銘が「謙譲と感謝」であったことから、ご自身も周囲に感謝して生きることを大切にしてくださいと話し、感謝する心を運動を通して次世代に伝えていきたいと語った。

愛媛県本部は、独自の活動で環境美化や青少年の心の育成に取り組んできた。中でも、「小さな親切」実行章には特に力を入れ、県代表が受章者のもとへ直接出向く表彰スタイルをとっている。森田県代表は、実行章贈呈のため小中学校を訪れた際、子どもたちに、「一年に二万回『ありがとう』を言おう。そうすれば幸せが訪れる」と話されている。これは、「ありがとうの奇跡」(小林正観著・ダイヤモンド社刊)に掲載されている言葉で、ありが

とうに人生のあらゆることへの感謝、であり、子どもたちに感謝する気持ちを持つことで温かな人間関係をつくり、幸せな人生を送ってほしいというメッセージが込められている。実行章とともに贈られる、森田県代表の温かな言葉。きつとこれからも、親切を実行する子どもがたくさん出現するにちがいない。



とき…平成29年6月22日(木)14時~15時45分
ところ…もみじ銀行本店 10階ホール

今回の総会では、広島県本部らしい他県との交流が生まれた。記念講演の講師を務めたのは、香川県本部副代表兼中央本部の特任推進委員を務める岡内利文さん。「小さな親切」運動と実践活動」と題し、小学校長時代に、「小さな親切」運動に出会い本当に良かった」と語り、実践協力校として活動することで、子どもたちは成長し、ひいては教員が、学校が、保護者が、地域が心を一つにした実体験は、聴く者に「小さな親切」運動の持つ力を伝えた。広島県本部では40周年を機に、県下の7支部をすべてまわり、各支部が抱える問題や要望についてじっくりヒアリングを行い、今後の展望について一緒に考えていくという。次の10年に向けて新たなスタートが切られた。